終わりになりましたが、見学会の都度配布される案内冊子の作成に当られている執行部のご努力に感謝いたしますと共に、何名かの方々からも、「頂いた素晴らしい案内冊子を、貴重な案内書として大切に保存し、活用させて頂いている」との謝意を込めたお話しをお聞きしました。今後とも宜しくお願い致します。

「南無阿弥陀仏」特別展を見学して～

細谷　毅

さわやかな秋びよりの一日、史談会主催の研修見学会に参加した。盛沢山の見学地であったので、紙数の関係から表題の特別展についてのみ、その思いを記します。

バスから降りて、熱い思いを胸に県立歴史博物館に入った。指導解説をいただいたのは、副館長の渡辺文雄先生である。的確で要点を押さえた説明はわかり易く、さすが第一人者だとの感を強くした。

仏教というと何か難しく、別世界のことのように思われがちであるが、せんじ詰めれば「幸せの追求、人生いかに生くべきか」という人間存在の根幹に関わる命題に答えるものであろう。

南無阿弥陀仏の六字名号を称えて仏・法・僧の三宝を信じて帰依する。これは死後の安穏な極楽浄土への往生を希求し、一向に来迎を予期する衆生の没我の様相であろうか。

主な展示物を概観すると、中央の出品の当麻曼陀羅、親鸞聖人像―大分からは親鸞聖人画伝、六字名号幡等―が並展されていたが、いずれも初めて目にする貴重な遺産であった。

この展示を通しては、本願寺等の阿弥陀信仰に関わる遺産と、県下に残された広範な遺産が示す信仰との間にどのようなつながりがあるのか、さらには豊前・豊後において浄土信仰はどのように広がっていったのか、庶民の信仰の状況はどうであったのか等、模索してみたい疑問点が次々に生じた。会場に置かれていた解説シートを読んでも判然としない。今後指導を仰ぎたい項目である。

いずれにしても阿弥陀信仰の数々の遺産の印象は鮮烈で、年をとったせいか仏を近く感じた次第である。兎に角、今日は充実感が膨らみ、稔りの気持ちを抱くことのできた一日であった。指導お世話いただいた渡辺先生、史談会役員の方々に満腔の意を表して拙文を終えたい。